



すべての人が 自分らしく輝いて暮らせる 活力あふれる明るいまちづくり

～有田市人権施策推進行動計画 基本理念より～



～不当な差別や偏見をなくしましょう～

新型コロナウイルス感染症に関する 人権への配慮について

新型コロナウイルス感染症に関連して、感染者やそのご家族、関係者、医療従事者等に対して、不当な扱いをする、インターネット上のサイトやSNSなどに誹謗中傷の書き込みを行うといった、差別やいやがらせ、いじめは決して許されるものではありません。

差別や偏見等が広がることは、人々の不安をあおり、感染拡大防止の取組への妨げにもなります。

誤った情報や不確かな情報に惑わされて人権侵害につながることはないよう、正しい情報に基づいた冷静な判断のもと、お互いを思いやる気持ちをもって行動しましょう。

感染症医療機関に指定され、コロナウイルス感染患者を受け入れ、その治療を行っている有田市立病院から、手記を寄稿していただきました。コロナウイルスと闘っている現場からの生の声をお聴きください。

手記：コロナウイルスとの闘い

有田市立病院 中村美智

2020年、56年ぶりとなる東京オリンピックが開催されるはずであった年に、コロナウイルスの到来で、世界中の人々の生活が一変しました。感染症医療機関に指定されている当院も県内初の感染者が報告された2月から闘いがはじまりました。とくに春から夏にかけて、感染症に直接対応する看護師たちは恐怖と疲労との闘いでした。

発生当初は感染症に携わっていることで、普段利用している店や医院・研修会などで感染者のような扱いをされ、心が折れそうになりました。家族にまで受け入れてもらえず苦悩する者もいました。当時、一般病棟勤務だった私は、日頃行っていない面会制限などの感染予防策を徹底する中で、入院患者様やその家族が強烈な不安を抱いていると感じ、少しでも不安が解消されるように寄り添いました。

このような中、私は感染症病棟に配属となりました。私の職位は、中間管理職という立場ですので、自身の不安もありましたが、コロナに不安を抱くスタッフをどのように導き、サポートしていくかという事が私の課題でした。実際、スタッフの中には、不安が強く、どうしても業務につきたくないという人もいました。小さい子どもを抱えるスタッフや高齢者の介護をしているスタッフなど、自身が感染したら、家族も感染させてしまうかもしれないという思いから、離職を考えるスタッフもいました。それでも公立病院の看護師である以上、不安を抱えながらの勤務を継続しました。

私が心がけたことは、一人の院内感染者もださないためにはどうすればよいか考え、実践につなげることでした。

有熱者外来は、発熱患者を問診や様々な検査で通常診療と感染症診療に振り分ける機能をもったブースになります。そこは夏の炎天下の中クーラーもなかったため、脱水症や熱中症に注意しながらの勤務でした。使命感で従事していた看護師も疲労が蓄積して、「いつまで続くのか。」「何で私達だけが。」といった声がみられるようになりました。私自身もスタッフと一緒に業務していたので、このように思うスタッフの気持ちも理解できました。私は、スタッフに、自分の思いを伝えました。「私は、この地域で暮らすみんなが健康で笑顔が絶えない、そういう地域社会を目標にこの病院で看護師を

しています。いま、私たちがこのコロナ禍でこの闘いを放棄したら、地域が混乱してしまう。この地域には、もちろん私達子ども、そして父や母が暮らしている。私もみんなと同じように苦しいし、不安だけど逃げ出すことはできない。」

それからは、みんなで励まし合いながら業務にあたりました。看護部長もスタッフの状況を理解し、一定のスタッフに負荷がかからないように、ローテーション勤務体制を導入してくれました。

看護師にとって患者様の安心・安全を守ることは当然ですが、そこに携わる看護師を守ることも管理職の役割です。先日(過労で)体調不良になり、急遽早退する看護師がいました。どんなに完全防備で身を守っていても、まだまだ解明されていないコロナウイルスが存在している環境で働くことのリスク、不安、恐怖ははかりしれないことを改めて実感しました。医療従事者の感染リスクは、WHO(世界保健機構)では14%と発表されています。どんなに心掛けても感染リスクがゼロにならない現実を真摯に受け止め、看護師を守らなければなりません。また、精神面におけるサポートも重要です。私はストレスや不安を溜め込むのではなく、我慢せず声に出すことができる環境作りやスタッフへの声掛けを心掛けています。

当院には感染管理認定看護師が在籍しており、職員スタッフ全員が教育・指導を受け、医師・看護師・検査技師・レントゲン技師・薬剤師等連携をとり、体調不良で受診される患者様、コロナウイルスに罹患し入院生活を余儀なくされる患者様に対し、安心して治療が受けられる環境を病院全体ONE TEAMとなって整えています。

まだまだ終息の見えない状況ですが、自分が感染するかもしれないという恐怖、家族や周囲に感染を広げないかという不安は常に付きまといます。しかし、このような状況から逃げることなく立ち向かっている仲間たちを私は誇りに思います。いつか笑顔で東京オリンピックを観戦できることを楽しみに励んでいきます。



和歌山県では

コロナ差別相談ダイヤル

を設置しています。

TEL 073-441-2563

FAX 073-433-4540

(受付時間：平日 9:00~17:45)

わたしは、言葉がなかなかでない。

「えーとねー」「うーん」と言っている。

思っていることを言いかけても言葉がすべからずいじょうがでない

ちゃんと伝わらなくてさみしい

話すことをやめてしまうこともある。

でもおばあちゃんや先生は時間をかけて話を聞いてくれる

ゆっくりにゆっくりに聞いてくれる。

あわてなかったらみんなちよいしないうで話せる。

それもこせいだと言ってくれぬ。

うれしくなる。

こせいと聞いてくれたらすこく楽しくなる。

もっと話していいんだと思う。

これからもゆっくりにたくさん話をしたい。

「えーとねー」は、わたしのこせいである。



小学生の部 知事賞

『「えーとねー」の言葉』

保田小学校3年 堀江 萌朱さん

こころ うた

人権の詩2020 小学生の部にて、

知事賞・理事長賞を受賞された作品を紹介します

(公財)和歌山県人権啓発センター

勉強はとくいじゃない

私のおねえちゃんは勉強ができる。

100点だったとたくさんとってくる。

ずっと遠い後ろを追いかけてきた。

おねえちゃんのテストが返ってくる

みんながほめる。

私はまた1つ間違えた

いうことができない

おねえちゃんのかげにいつも隠れてしまっている

でも、おねえちゃんより得意なこと見つけた

妹の面倒みること、洗濯物をたたむこと

みんなが私をほめてくれる

おねえちゃんの後ろばかり追いかけるのにつかれた

もう同じことばかりを追いかけるのはやめよう

私の得意なこと、しっかりがんばればいいじゃん



小学生の部 理事長賞

「わたしという人間」 保田小学校4年 堀江 莉望さん

新型コロナウイルス感染症に関わらず、誹謗中傷、差別やいじめはぜったいに許されません。

もし、あなたが悩みを抱えているなら、ひとりで悩まずに相談してください。

全国共通人権相談ダイヤル (平日 8:30~17:15)

みんなの人権 110 番	0570-003-110
子どもの人権 110 番	0120-007-110
女性の人権ホットライン	0570-070-810

相談・お問い合わせ
有田市市民課人権啓発係
0737-22-3558

